

サッポロHD

国内酒類事業、食品・飲料事業の物流機能集約へ

サッポログループ物流に「需給統括グループ」を新設

サッポロホールディングス（本社・東京都渋谷区、上條努社長）では、国内酒類事業、食品・飲料事業を中心としたグループ物流機能を、サッポログループ物流（本社・東京都渋谷区、松崎栄治社長）に集約する方針を固めた。昨年来、グループのロジスティクスのあり方について検討してきたが、需給インフラの再設計、在庫マネジメントの適正化を確実に実行するための体制に段階的に移行。4月から本格的にスタートし、第1ステップとして、サッポロビール、ポッカサッポロフード&ビバレッジの物流部門がサッポログループ物流に移管され、同社に事業会社で担っていたロジスティクス機能を集約し、グループのロジスティクス総合力強化を図るため「ロジスティクスソリューション部」を新設。その中に「需給統括グループ」を設置した。サッポログループ物流では今後、需給機能も含めたグループ物流機能の全面移管も視野に入れ、ロジスティクスの視点でバリエーションの全体最適を追求していく。

サッポロHDでは昨年4月、サッポログループ物流と主要事業会社の生産、調達、物流、営

業、経営戦略部門のメンバー約60人から成る「グループロジスティクス方向性検討ユニット」を発足。同12月までの9ヵ月間、①ヒト・組織②在庫③需給インフラ——の3つの項目を検討し、方向性をとりまとめた。

同ユニットでは、グループのバリエーションの全体最適の実現に向け、商品開発、生産計画、発売および終売に際して、物流の視点を加味した上での総合的な判断の必要性を確認。また、在庫マネジメントの適正化のキーとなる需給機能（生産計画立案、全国の在庫配置）の位置付けについて検討した。

その結果、メーカーにとってコアである生産



グループのロジスティクス総合力を強化

計画立案を含む需給機能に関しては、当面、各事業会社に残し、需給担当者がサッポログループ物流に新設した需給統括グループと兼務する体制とした。今後は同グループの方針に沿って、各事業会社が生産計画の立案とオペレーションを行う。

従来、サッポロビールはSCM部、ポッカサ

ッポロF&Bはロジスティクス部が物流を管轄していたが、担当者を含めた物流機能をサッポログループ物流に移管した。実務が主体だったサッポログループ物流に各事業会社の物流の知見・ノウハウを集約し、国内酒類事業、食品・飲料事業の物流におけるシナジー創出を目指す。